

事業コード	H16-建-継-28			区 分	国庫補助 県単独
事業名	海岸環境整備事業			部 局 名	建設交通部
事業種別	海岸事業			課 室 班 名	河川課 河川、防災・海岸班 2516
路線名等	琴浜海岸			担当課長名	進藤 鋼
箇所名	秋田県南秋田郡若美町宮沢			担当者名	主幹 佐々木 和雄
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり	
	施策コード	02	施策名	災害に強い県土づくり	
	目標コード	07	施策目標名	海岸整備率	

1. 事業の概要

事業期間	H 8 ~ H 2 5 (1 8 年)	総事業費	1 5 . 9 5 3 億円	国庫補助率	1 / 3		
事業規模	全体延長L=681.0m 人工リーフL=350m×1基 151m×1基 180m×1基						
事業の立案に至る背景	<p>琴浜海岸は、須郷岬(青森県境)と男鹿半島に挟まれた南北に湾曲した砂浜海岸の中央に位置し、男鹿国定公園に隣接する県内有数の海水浴場である。</p> <p>しかし、冬季風浪などにより、汀線が後退したため、それにより打ち上げ高も増大し、侵食被害が発生しており、背後地の施設等に被害をおよぼす恐れがある。</p> <p>このような状況から、海岸侵食および越波防止をするべく整備の必要がある。</p>						
事業目的	<p>琴浜海岸の重要性に鑑み、50年確率波浪に対し、安全な海岸保全施設の整備を図るものとし、周辺環境および景観を考慮した人工リーフを設置する。</p> <p>これらの施設整備を行うことにより、海岸侵食を防止し、海浜の環境を整備する。</p>						
事業費内訳	(単位:千円)						
		全 体	H15年度迄	H16年度	H17年度	H18年度以降	
事業内容	事業費	1,595,300	1,002,300	60,000	60,000	473,000	
	経費内訳	工事費	1,405,942	882,942	53,000	53,000	417,000
		測定/他	89,393	59,393	3,000	3,000	24,000
		その他	99,965	59,965	4,000	4,000	32,000
	財源内訳	国庫補助	531,000	334,100	20,000	20,000	157,000
		県債	957,870	601,380	36,000	36,000	284,400
		その他					
一般財源	106,430	66,820	4,000	4,000	31,600		
事業内容	人工リーフ設置 離岸堤撤去・ 転用、処理	人工リーフ設置	人工リーフ設置 離岸堤撤去・ 転用	人工リーフ設置 離岸堤撤去・ 転用	人工リーフ設置 離岸堤撤去・ 転用、処理		
事業推進上の課題	特になし。						
上位計画での位置付け	あきた21総合計画の施策目標「海岸整備率」の中核事業であり貢献度が高い。						
関連プロジェクト等	特になし。						
事業を取り巻く情勢の変化	<p>海岸背後のCCZ整備計画による施設はほぼ完成し、若美町の重要な施設として利用されている。</p> <p>海水浴として利用されている海岸であることから、景観や自然環境に配慮した工法への要望が益々強くなっている。</p>						
事業効果把握の手法及び効果	指標名	海岸整備率(%)			データ等の出典	県河川課調べ	
	指標の種類	成果指標	業績指標				
	指標式	(整備延長/海岸保全区域延長)*100					
	目標値 a	56.2					
	実績値 b	56.1					
	達成率 b/a	99.8%					
			把握の時期	16年 3月			

前回評価結果等	選定または継続 指摘事項	改善	見直し	保留または中止
	指摘事項への対応			

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評価点
必 要 性	琴浜海岸は、県内有数の海水浴場であり、また、その背後には、CCZ整備計画による温泉施設、コテージ、学習施設が整備されており、地元若美町の重要な観光資源である。 当該事業が地元経済に与える影響は大きく、活性化に対して大きな期待がもたれている。	2.5 点
緊 急 性	既設離岸堤により、侵食被害は食止められたが、年々前進する砂浜により、海水浴場としての機能が失われつつあり、また、離岸堤により景観が悪化し、海水浴客が減少している傾向にある。 よって、早急に離岸堤から人工リーフに施設転換を図り、景観に配慮した海水浴場を回復させる必要がある。	2.1 点
有 効 性	<p>【手段の妥当性】(代替案立案等の可能性) 当該海岸における代替案としては、『突堤』、『ヘッドランド』、『突堤+養浜工』等が考えられる。</p> <p>突堤：沿岸漂砂を概ね阻止出来るものの、沿岸漂砂の下手側は急激な侵食が予想される。また、沖側への土砂流出が懸念される。</p> <p>ヘッドランド：ヘッドランド間の海浜安定が図れるが、海底勾配と漂砂の移動限界水深の関係から施工延長が長大となる。また、突堤と同様に下手側での侵食が予想される。</p> <p>突堤+養浜工：突堤の効果により、沿岸漂砂は阻止できるものの、沖側への土砂流出は防止できないため、継続的な養浜砂の投入が必要である。</p> <p>当該海岸の事業により、周辺海岸および沿岸漂砂の下手側の侵食を助長させないことが重要である。また、当該海岸は、県内有数の海水浴場、観光地でもあることから、景観に配慮した施設を整備することが地元からの要望でもある。よって、代替案は不採用とする。</p> <p>【整備効果】 人工リーフの整備に伴い、砂浜の保全、復元がなされている。</p>	2.0 点
効 率 性	<p>【費用対効果】 事業の費用対効果は、1.0以上であり効率性は高い。 ・費用対効果(B/C)：1.28</p> <p>【コスト縮減の取組状況】 今後整備する人工リーフは、撤去される既設離岸堤の消波ブロックと被覆ブロックの経済比較を行い、経済的かつ安定性、施工性に有利な撤去する消波ブロックを用いて被覆することによりコスト縮減を図っている。</p>	1.1 点
熟 度	<p>【地域の状況】 離岸堤背後の水深が浅くなっていることから、離岸堤を早急に撤去し、人工リーフへ施設転換する当該事業に対する期待は大きい。</p> <p>【事業進捗の見込み】 景観や自然環境に配慮した施設を整備する必要があることから、平成25年度の事業完成を予定している。</p> <p>【環境対策】 海中および海岸における生態系の積極的回復あるいは創出のために、現状および将来の生態系を良好に保全し、かつ施工段階においても環境への負荷に配慮した工法を検討する。</p>	1.0 点
判 定	<p>ランク (○)</p> <p>地元若美町からの要望も高く、海岸背後施設の重要性、事業の有効性、効率性等から、事業の必要性は高く評価出来るものと考えられる。</p>	8.7 点
総合評価	<p>○ 継続 改善して継続 見直し 中止</p> <p>各観点の評価結果から、事業実施箇所としての優先度は高く、事業は継続すべきと考える。</p>	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

事業を継続する。事業実施に当たっては、引き続きコスト縮減に留意する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価および対応方針を可とする。

別表7 (27)

公共事業箇所評価基準

評価種別 新規箇所 (継続箇所)

事業コード (H16 - 建 - 継 - 28)

箇所名 (秋田県南秋田郡若美町宮沢)

適用事業名

海岸事業

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	防護対象となる面積・人口 1kmあたりの防護面積・人口	10ha以上又は100人以上	10	7	
		7ha以上又は70人以上	7		
		5ha以上又は50人以上	3		
	災害発生時の影響 浸水・侵食戸数	10戸/km以上	5	5	
		5~9戸/km以上	3		
		5戸/km未満	1		
	事業箇所の現状 波浪、侵食等に対する防護性	波浪、浸食の被害があるなど防護は劣っている	5	5	
		被害は見られないが防護は劣っている	3		
		優れている	1		
	事業の進捗状況 進捗率	計画より進捗している	5	3	
		概ね進捗(90~100%未満)	3		
		計画より遅れている(90%未満)	1		
		今後の進捗見込み	5		
課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる	5				
将来的な課題はあるが当面進捗に影響がない	3				
課題は解決の見込みがなく事業が停滞する	1				
計		30	25		
緊急性	海岸整備の緊急性 過去の被害実績	2回以上	5	3	
		1回	3		
	侵食の速度	1.0m/年以上	10	10	
		0.5m/年以上1.0m/年未満	7		
		0.5m/年未満	3		
	生命財産の危険性	背後地住民の生命財産に関わる被害が想定される	5	3	
		越波による冠水や砂浜侵食の被害が想定される	3		
生命財産の危険性は想定されない	1				
事業未実施の影響	事業効果や効率性、周辺への影響等が大きい	5	5		
	事業効果や効率性、周辺への影響等は小さい	1			
計		25	21		
有効性	上位計画への貢献度 あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い	5	5	
		施策目標に間接的に貢献する	3		
		施策目標とは別にその他関連事業である	1		
	海岸整備に伴う有効性 災害の防止効果	越波災害防止効果が発現する	5	5	
		災害防止効果は現状と変わらない	1		
	侵食防止の効果	砂浜侵食防止効果が発現する	5	5	
		侵食防止効果は現状と変わらない	1		
海岸の景観	改善する	5	5		
	改善しない	1			
計		20	20		
効率性	事業の投資効果 費用便益比(B/C)	2.0以上	5	3	
		1.0以上~2.0未満	3		
		1.0未満	1		
	事業実施コストの縮減 該当項目数	3項目以上	5	3	
		2項目	3		
		無しまたは1項目	1		
	当初計画との比較 当初計画事業費からの増減	減少又は10%未満の増加	5	5	
10%以上30%未満の増加		3			
30%以上の増加		1			
計		15	11		
塾度	環境との調和への配慮状況 環境保全への配慮	十分に配慮されている	5	5	
		配慮が不十分で検討している	3		
		特に配慮はない	0		
	地元との合意形成の状況 地域住民の事業実施の意向	意向が強(要件の同意をクリアしている)	5	5	
		意向が強(要件の同意を概ね得ている)	3		
意向が一部で強いがまだ要件の同意を得ていない	1				
計		10	10		
合計		100	87		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	合計点	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上	87	
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		